

令和6年度 第2回 伊東市立八幡野小学校運営協議会

令和6年10月9日 10時00分より会議室

参加者 関谷会長 稲葉副会長 小田委員 大村委員 太田委員 関川委員
萩原委員 市川委員 平田委員 中西委員
事務局 濱村

1 開会の言葉

2 会長挨拶

- ・子供たちのために多くの地区に参加していただき有り難い。

3 校長挨拶

- ・今年度より八幡野以外に赤沢・伊豆高原連合からも加わってくさっている。
- ・サポーターにも助成金・協力金をいただき感謝。
- ・グラウンドデザインを示しながら、第2・3ステージの取組を紹介。
- ・音楽集会10/2に来ていただいたお礼。当日に向け子供たちが創り上げた。
- ・これからも学校に足をたくさん運んでいただき、ご意見をください。

4 議事 【会長】

(1) 八幡野小学校サポーター活動報告

【コーディネーター】サポーターは、『花飾り』(11名)、『登下校時見守り』(7名)に加え、『読書見守り』(6名)の3つのグループで活動。学校と地域が協力し、子供たちの成長を見守りたい。

【委員】桜並木は子供があまり通らないため危険度の高い三信・ナガヤに立つ。

【委員】下校時刻が低・高学年で異なる。何年生を重点にしたいか。

【校長】どの学年も危ない。みなさんのご都合に合わせ、無理の無いように行ってください。優先を付けるならば、低・中・高の順。

【委員】学校として通学路の指定はあるか。

【校長】今はしてない。

【コーディネーター】昨日の見守り時、傘を差さずに濡れたまま下校する子が5名いた。置き傘はないのか。

【校長】置き傘があり、急に雨が降ると多くの子が借りていく。あえて傘を差さない子もいるか。

【委員】自分のことは自分でできる子を育ててほしい。親に伝えてはどうか。

【校長】雨の日は、自分で考えて靴下を持ってくるとか、学ばせたいと思う。

(2) サポーター会議への助成金・協力金及び市予算の執行状況報告

【コーディネーター】八幡野区より助成金33,000円、赤沢区・大室高原自治会・伊豆高原親和会・伊豆高原すいらん荘から、各20,000円を協力金としていただいた。コミュニケーションスクールの予算とは分けて、サポーターの活動に使用させていただく。

【コーディネーター】見守りグループが使用できるよう、黄色い帽子や雨の日に見通しの良い透明の傘を、助成金等で購入しようと考えている。

【学校】市からの30,000円はこれまで、花飾りグループが花を飾った際に使用するカード立てや筆記用具、それらを入れるコンテナ、サポーター募集のチラシを印刷する色上質紙等に使用している。

【コーディネーター】市からの予算は、直接学校に関するもの(チラシ用の紙等)として使い、こちらはサポーターさんのための帽子等を購入していく予定。

【委員】計画性をもって購入したい。10年先を見ずえると良いか。

【委員】毎年、助成金・協力金をお願いするのか。

【コーディネーター】最低限でいく。

(3) 「ボランティアをする際の心得」について

【学校】「ボランティアをする際の心得」について説明。

【校長】子供だけでなくサポーターの方々も守りたい、という思いで市内で初めて作った。使いながらゆるやかに変えていくもの。

【議長】ご意見があったらお願いします。

【委員】学校であったことを、家に帰って家族に話すのも危険。

(4) その他

【委員】あるサポーターさんから、八幡野小の子は挨拶が遠慮がち、と言われたがどうか。

【委員】挨拶をして半分くらいの子しか返ってこない。挨拶した方が気持ちよい子を育てていきたい。反面、挨拶をしない自由もある。

【委員】やっていくうちに元気になっていくものか。

【学校】挨拶は心のありようか。その子によって異なるので待ってみることも大切か。一律に大きな声で挨拶させるのでは育たないか。自分たちのために見守ってくださっている方に、オフィシャルでお礼を伝えていけるとよいと思う。

【委員】心を開くことを、地域としても大切にしたい。

4 閉会の言葉【副会長】

・地域の人が学校に関心をもって自分たちを高めていこう、というねらいがある。地域に戻って広めていこう。